

宮城県幼稚園・保育所歯科保健活動調査の集計結果について

平成 23 年 2 月 19 日

宮城県幼稚園・保育所歯科保健活動調査は、幼稚園及び保育所における4・5歳児の歯科保健活動の現状を把握し、今後の乳幼児期の歯科保健の推進を図るために実施致しました。本報告は、調査結果から読み取れるいくつかの要点をまとめております。幼稚園・保育所のこれからの歯科保健の推進に、ご参考にして頂けましたらと思います。文中に示した図は、全て仙台市以外の幼稚園・保育所のデータをまとめたものです。

調査にご協力頂きました幼稚園・保育所の皆様に心から御礼申し上げます。また、仙台市のデータ(保育園は認可保育所を対象)は、仙台市が実施しました同調査の結果を提供頂きまして、本調査結果と合わせて解析することにより、より詳細な課題の抽出に役立させて頂きました。併せて皆様に御礼を申し上げます。

昨年のクリスマス・イブに宮城県歯と口腔の健康づくり推進条例が公布され、子どもたちの歯科保健の推進は、生涯の健康づくりの基盤であるといった認識が益々強まっています。皆様の日々の健康に対する活動が大きく展開し、皆様と共に子どもたちのきれいに並んだ歯の笑顔がいつばいの宮城県にしていきたいと思っておりますので、各方面でのご尽力を心よりお願い申し上げます。

東北大学大学院歯学研究科 地域歯科保健推進室
宮城県4・5歳児むし歯総合対策強化事業実施委員会

1. 調査に協力頂いた幼稚園・保育所の園児数及び職員数について

宮城県幼稚園・保育所歯科保健活動調査にご協力いただきました施設は、対象幼稚園の78%、対象保育所の81%でした。皆様のご協力に感謝申し上げます。

	施設数	回答施設数	回収率	回答施設の園児数											
				総園児数			0~2歳園児数				3~5歳園児数				
				~50	~100	101~	0	~25	~50	51~	0	~50	~100	101~	
全体	731	583	79.8%	28.0%	39.6%	31.4%	35.8%	26.6%	29.7%	6.9%	1.7%	44.3%	37.2%	15.8%	
仙台市以外	509	394	77.4%	36.8%	41.1%	21.3%	35.3%	35.0%	23.9%	5.1%	2.3%	54.8%	29.4%	12.7%	
仙台市	223	189	84.8%	9.5%	36.5%	52.4%	37.0%	9.0%	41.8%	10.6%	0.5%	22.2%	53.4%	22.2%	
保育園	434	351	80.9%	23.6%	47.7%	27.6%	1.1%	38.1%	48.6%	11.1%	2.8%	50.3%	43.8%	2.0%	
仙台市以外	315	242	76.8%	32.6%	49.6%	16.9%	1.7%	51.7%	38.0%	7.9%	3.7%	61.6%	31.0%	2.9%	
認可外保育施設	95	41	43.2%	92.7%	4.9%	2.4%	2.4%	90.2%	7.3%	0.0%	12.2%	85.4%	2.4%	0.0%	
認可保育施設	220	201	91.4%	20.4%	58.7%	19.9%	1.5%	43.8%	44.3%	9.5%	2.0%	56.7%	36.8%	3.5%	
仙台市	119	109	91.6%	3.6%	43.6%	50.9%	0.0%	8.2%	71.8%	18.2%	0.9%	25.5%	71.8%	0.0%	
幼稚園	298	232	77.9%	34.6%	27.3%	37.2%	88.7%	9.1%	0.9%	0.4%	0.0%	35.1%	27.3%	36.8%	
仙台市以外	194	152	78.4%	43.4%	27.6%	28.3%	88.8%	8.6%	1.3%	0.7%	0.0%	44.1%	27.0%	28.3%	
公立幼稚園	109	91	83.5%	61.5%	28.6%	8.8%	95.6%	0.0%	2.2%	1.1%	0.0%	62.6%	27.5%	8.8%	
私立幼稚園	85	61	71.8%	16.4%	26.2%	57.4%	78.7%	21.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.4%	26.2%	57.4%	
仙台市	104	80	76.9%	17.7%	26.6%	54.4%	88.6%	10.1%	0.0%	0.0%	0.0%	17.7%	27.8%	53.2%	

2. 歯科健診・歯科保健教育・指導の実施状況(4・5歳児、図1、2)

- 1) 認可外保育施設では、歯科健康診断を行っていない施設が71%であり、認可保育施設の98%が年2回実施していることと有意に差がありました。
- 2) 職員を対象とした口腔保健活動は、仙台市の施設が仙台市以外より有意に多く実施し(35% vs 20%)、保育所が幼稚園より有意に多く実施していました(28% vs 18%)。
- 3) 保育所で園児を対象とした口腔保健活動は、総園児数が多くなるほど有意に実施していました(50人以下の施設は80%、101人以上の施設では92%)。
- 4) 保護者を対象とした口腔保健活動は、仙台市が仙台市以外より有意に多く(48% vs 39%)、保育所が幼稚園より有意に多く(47% vs 32%)、認可保育施設が認可外保育施設より有意に多く(45% vs 21%)実施していました。
- 5) 平成21年度にクラス単位で行った口腔保健活動は、ほぼ9割以上の施設が実施していましたが、認可保育施設が認可外保育施設より有意に多く(97% vs 80%)実施していましたが、特に仙台市では仙台市以外より、行政や各種団体主催の歯と口をテーマにしたコンクールへ作品に有意に多く応募していました(41% vs 3%)。

図1. 「貴園では歯や口の健康に関わる活動を行っていますか」の回答

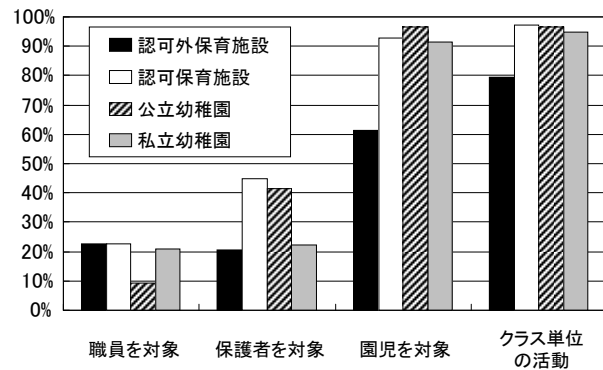
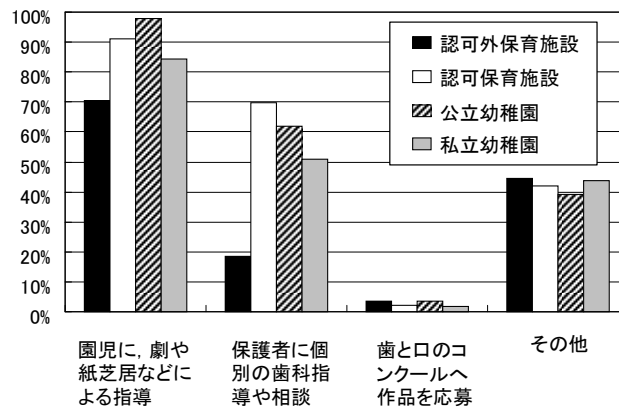


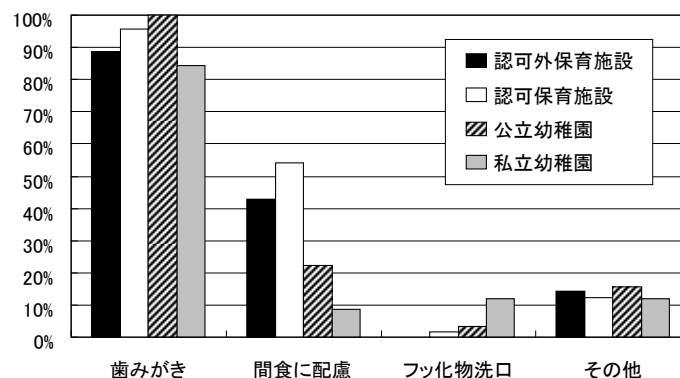
図2. 「平成21年度にクラス単位で行った歯や口の健康にかかわる活動は何ですか」の回答



3. 取り組んでいるむし歯予防策について（4・5歳児、図3）

- 1) むし歯予防方法について園児・保護者に対して推奨しているものは、ほとんどの幼稚園・保育所で歯みがきを挙げていました。奨励に差が見られるのは、「間食に配慮」は保育所が幼稚園より有意に奨励し（59% vs 33%）、さらに公立幼稚園は私立幼稚園より有意に推奨していました（44% vs 30%）。また、仙台市は仙台市以外よりフッ化物を有意に推奨していました（44% vs 3%）。
- 2) 実施しているむし歯の予防活動については、9割の幼稚園・保育所で歯みがきに取り組んでいました。取り組みに差が見られるのは、「間食に配慮」は保育所が幼稚園より有意に奨励し（50% vs 15%）、さらに公立幼稚園は私立幼稚園より有意に推奨していました（22% vs 9%）。また、仙台市は仙台市以外よりフッ化物を有意に推奨していました（50% vs 3%）。これらの傾向は、奨励しているもの（前述1）と同等でした。
- 3) フッ化物洗口の実施に関しては、幼稚園（23% vs 8%）も保育所（35% vs 1%）も総園児数が101人以上が50人以下と比較して有意に洗口を実施していました。

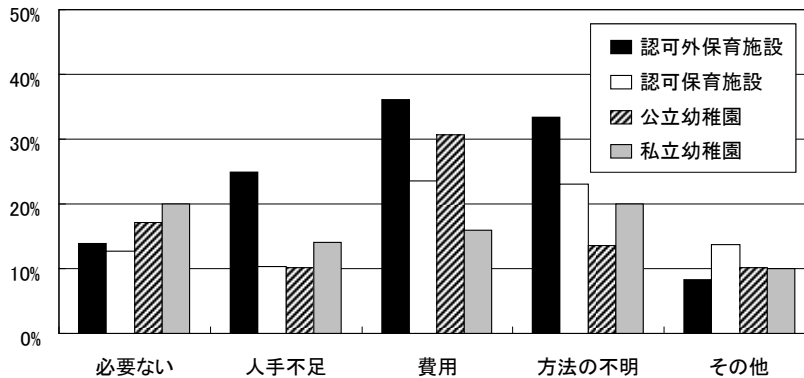
図3. 貴園で実施しているむし歯の予防活動について



4. フッ化物洗口の取り組みについて（図4）

- 1) フッ化物洗口の開始年齢は、幼稚園の方が保育所より3歳児からの開始が有意に多く（47% vs 25%）、幼稚園では総園児数が50人以下が101人以上と比較して有意に早期に開始していました（3歳児から、67% vs 28%）。
- 2) 保育所（93% vs 4%）と幼稚園（58% vs 29%）では週5回法が週1回法より有意に多く実施されていましたが、週1回法は幼稚園の方で多く実施していました。
- 3) 洗口を始めたことで、むし歯予防活動に変化があったと9割の施設で感じていました。
- 4) フッ化物洗口を実施しない園は、その理由として、仙台市以外は仙台市と比較して、「費用の面」（26% vs 14%）、「方法が判らない」（21% vs 5%）が有意に多く、保育所では、認可保育施設が認可外保育施設より「人手不足」が有意に多く（25% vs 10%）理由としていました。

図4. フッ化物洗口を実施しない理由



5. 今後のむし歯予防の取り組みについて（4・5歳児、図5、6）

- 1) 「現在、むし歯予防の取り組みに力を入れていると思いますか」の問いには、62%の施設が肯定的に回答し、「今後、むし歯予防の取り組みにより力を入れていこうと思いますか」の問いには、87%の施設が肯定的に回答していました。これは、保育所では認可保育施設が認可外保育施設より、幼稚園では公立幼稚園が私立幼稚園より有意に前向きに回答していました。
- 2) 「どのようなむし歯予防の取り組みに、より力を入れていこうと思いますか」の問いには、「園児に、劇や紙芝居などによる指導」が9割の施設、「保護者に個別の歯科指導や相談」に7割の施設が回答しましたが、他の項目は1割以下でした。
- 3) 「むし歯予防の取り組みにより力を入れていこうと思わない」施設の理由は、「人手・時間が足りない」が63%、「費用がかかる」が30%、「必要を感じない」「方法がわからない」が15%でした。
- 4) 「むし歯予防に取り組むに当たり、行政等にどのような支援を希望しますか」の問いには、「保護者向けの歯科指導や相談を行うための技術的支援」が50%、「職員向けの歯科保健活動全般に関する情報の配布や相談」が48%、「歯科保健活動に対する予算的支援」が44%、「園児向け指導に対する技術的支援」が38%と続き、多くの施設が課題を訴えていました。

図5. どのようなむし歯予防の取り組みに、より力を入れていこうと思いますか。

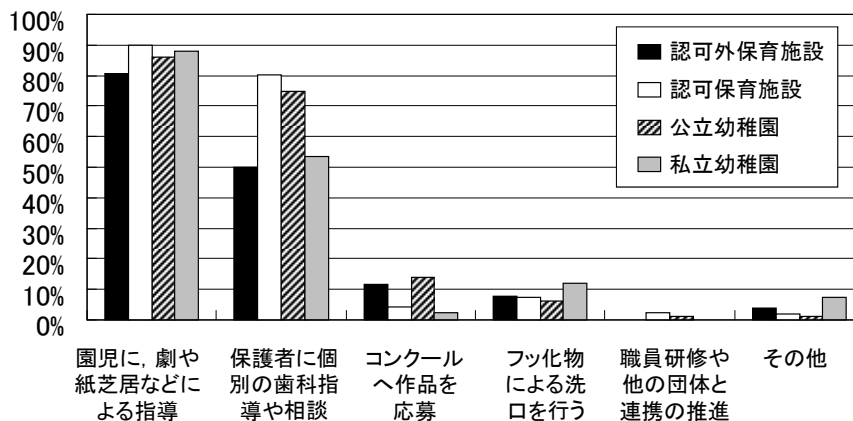
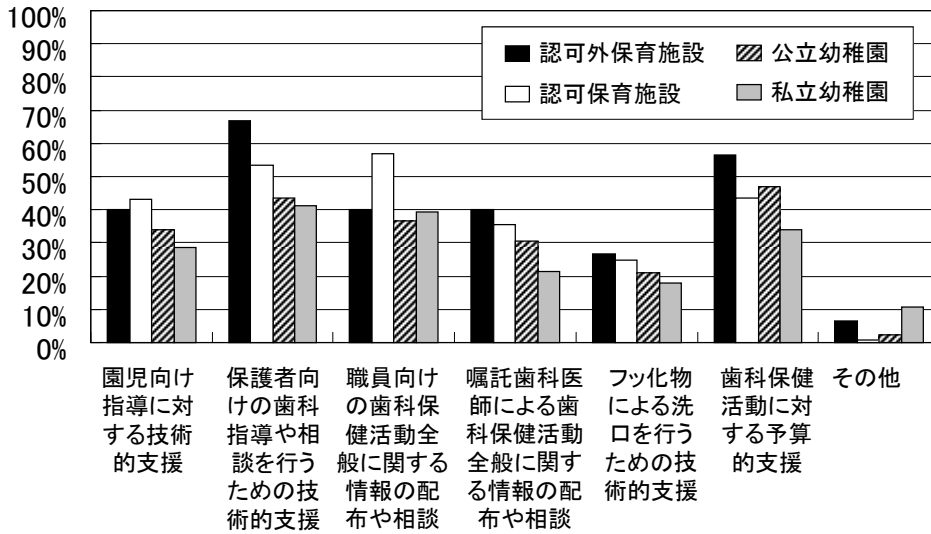


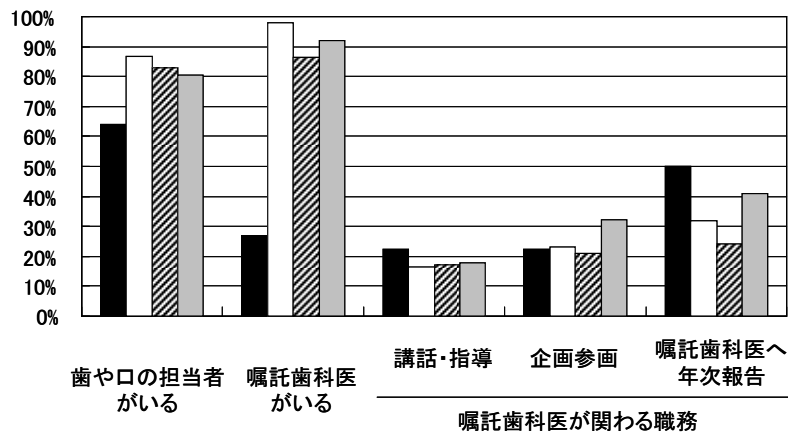
図6. 貴園がむし歯予防に取り組むに当たり、行政等に希望する支援



6. 歯や口の健康に関する担当者・嘱託歯科医の有無（図7）

- 1) 歯や口の健康に関する教育・指導をする担当者は、8割以上の施設で決まっていますが、認可保育施設が認可外保育施設より有意に多く（87% vs 64%）決まっています。同様に、歯科関係者は5割の施設で参画していますが、認可保育施設が認可外保育施設より有意に多く（61% vs 13%）参画していました。
- 2) 嘱託歯科医は9割の施設で決まっていますが、認可保育施設が認可外保育施設より有意に多く（98% vs 27%）決まっています。また、幼稚園（94% vs 82%）も保育所（99% vs 65%）も、総園児数が101人以上ですと、50人以下と比較して有意に多く決まっています。
- 3) 嘱託歯科医は歯科健康診断はするものの、保育所においては講話や歯みがき指導を実施したり（17% vs 37%）、打合せ・事務連絡等の時間を確保したり（22% vs 41%）することは、仙台市以外は仙台市と比較して有意に少なく、同様に、幼稚園（32% vs 42%）や保育所（33% vs 64%）では健診結果の嘱託歯科医への年次報告を行っている園は仙台市以外は仙台市と比較して有意に少ない現状でした。

図7. 歯や口の健康に関する教育・指導をする担当者と嘱託歯科医の職務の有無について



7. 園内の歯や口の担当者の口腔保健推進の役割（図8、9）

- 1) 園内の歯や口の担当者がある施設では、嘱託歯科医の存在（93% vs 79%）、嘱託歯科医の講話指導（24% vs 4%）、嘱託歯科医の企画参画（30% vs 18%）、嘱託歯科医へ年次報告（42% vs 25%）が有意に多く実施されていました。園内の歯や口の担当者がある施設は84%ですが、この園内の歯や口の担当者は、幼稚園・保育所の歯科保健推進の鍵となる人物と考えられます。
- 2) 園内の歯や口の担当者がある施設では、歯科健診（97% vs 86%）や、職員（28% vs 8%）・園児（95% vs 68%）・保護者（46% vs 18%）を対象とした歯や口の健康に関わる活動や、クラス単位で行った歯や口の健康にかかわる活動（98% vs 82%）を有意に実施していました。
- 3) 園内の歯や口の担当者がある施設では、有意に「むし歯予防方法について園児・保護者に対して推奨し」（99% vs 95%）、「フッ化物洗口を実施し」（22% vs 12%）、「現在、むし歯予防の取り組みに力を入れて」（70% vs 27%）、「今後、むし歯予防の取り組みにより力を入れていこうと思って」（90% vs 73%）いました（90% vs 73%）。

図8. 歯科関連担当者の有無と実施されている歯科保健活動

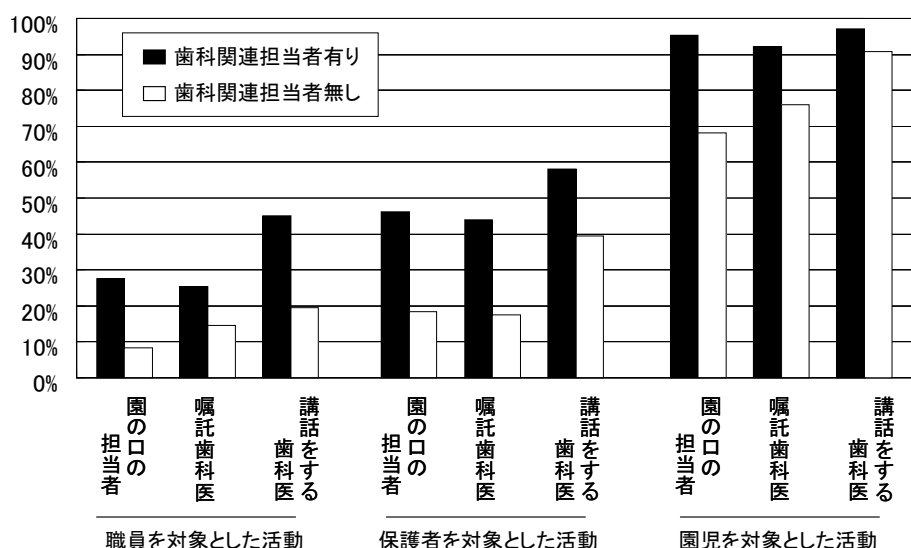
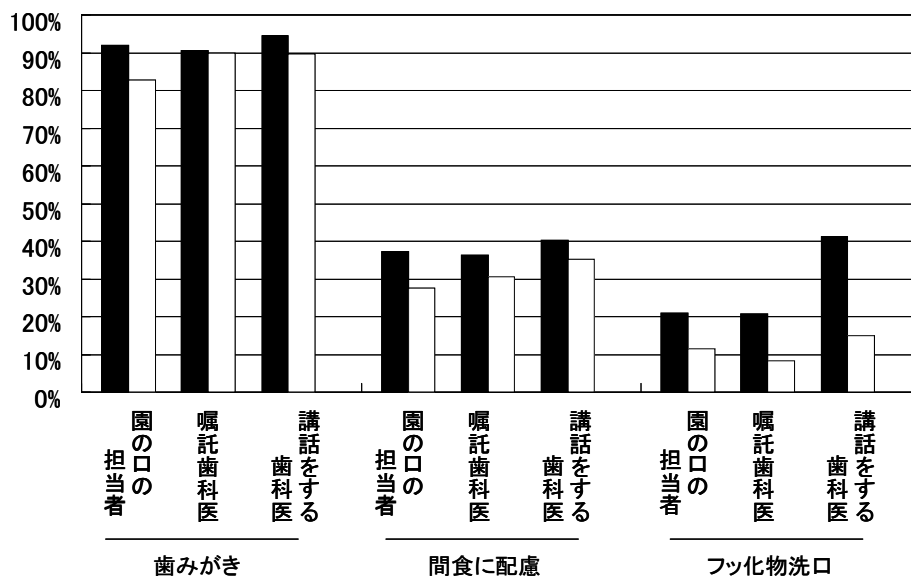


図9. 歯科関連担当者の有無と取り組まれているむし歯予防法



8. 嘱託歯科医の幼稚園・保育所の口腔保健推進の役割（図8、9）

- 1) 嘱託歯科医は90%の施設で指名されてました。嘱託歯科医のいる保育所では、園児（92% vs 76%）・保護者（44% vs 18%）を対象とした歯や口の健康に関わる活動が有意に多く実施されていましたが、幼稚園では有意差がみられませんでした。さらに、嘱託歯科医がいる施設は「現在、むし歯予防の取り組みに力を入れている」割合が有意に多かった（65% vs 41%）が、その他には有意差が示されませんでした。即ち、嘱託歯科医の設置だけでは口腔保健が推進するとは言えない状況です。
- 2) 嘱託歯科医の有無よりも、口腔保健の推進に寄与している因子と考えられるのが、嘱託歯科医による講話・指導の有無でした。園で講話・指導を行う嘱託歯科医がいますと、職員（45% vs 19%）・保護者（58% vs 40%）を対象とした歯や口の健康に関わる活動や、クラス単位で行った歯や口の健康にかかわる活動（99% vs 95%）を有意に実施していました。さらに、フッ化物の推奨（36% vs 13%）、フッ化物洗口の実施（41% vs 15%）が有意に多く、これらは保育所において強く現れる傾向にありました。
- 3) 幼稚園では、嘱託歯科医への年次報告の有無が口腔保健の推進に関わる場合が多いようであった。嘱託歯科医へ年次報告をする幼稚園では、職員（42% vs 10%）・保護者（48% vs 27%）を対象とした歯や口の健康に関わる活動や、フッ化物の推奨（20% vs 8%）、フッ化物洗口の実施（26% vs 7%）、が有意に多く取り組まれていました。

9. 母子健康手帳の活用について（4・5歳児）

- 1) 歯科保健活動に母子健康手帳を活用している施設は3%でした。「母子健康手帳を活用する機会があれば、活用を進める」と回答した施設は36%であり、保育園が幼稚園より有意に多く（49% vs 18%）、その中でも認可外保育施設が認可保育施設より有意に多く回答しました（80% vs 45%）。

10. 宮城県幼稚園・保育所歯科保健活動調査の集計結果から見えてきたこと

以上の結果から次の課題が考えられますので、これらをご一考いただき、幼稚園・保育所の口腔保健の推進に役立てていただければと思います。

- 1) 幼稚園・保育所で歯や口の健康に関する教育・指導をする担当者の存在は、幼稚園・保育所の口腔保健を推進する上で鍵となる人物と考えられます。幼稚園・保育所では、担当者を決めて、園職員・保護者を対象とした口腔保健活動を活発化していただきたい。
- 2) 幼稚園・保育所の嘱託歯科医は、専門家としての立場から、歯科健診を実施するのみならず、講話・指導を職員や保護者に向けて実施し、園からの年次報告を受けて園の取り組みを支援し、園児の口腔保健の推進により一層努めていただきたい。
- 3) 行政は、幼稚園・保育所における口腔保健推進を下支えするために、園職員や保護者に対する情報の発信や技術的支援等に努めていただきたい。
- 4) 宮城県に住む幼児の生涯にわたる健康を支えるために、幼稚園・保育所、嘱託歯科医、行政等の各主体は、互いに情報交換を密にして連携を強化し、幼稚園・保育所を口腔保健の推進基地として、健康な歯の園児たちの笑顔いっぱいの地域社会を広げていっていただきたい。